

— 特 許 記 事 —

最近の製鉄鋼業界に於ける発明

特許出願公告 (昭和31—3—26)

- | 公告番号 | 発 明 の 名 称 | (発明者) | 出願人 |
|-----------|--|----------|------------|
| 昭 31—2156 | 金型による無チル鑄鉄鑄物の製造法
珪藻土の微粉末及びベントナイトに稀釈シリカゾル溶液を混合した液を約 400°C に加熱した金型の内面に塗装し之に普通成分の鋳融鑄鉄を注入する方法。 | (岡見正一外3) | 久保田鉄鋼 K.K. |
| 昭 31—2157 | 鉄に対する鍍金方法
錫鍍金の表面に銅鍍金を施し之を油又は鋳融したフラックス中に於て錫の熔融点以上に加熱して鍍金した錫と銅とを化合せしめた後鉛錫合金の融液に浸漬することにより錫銅合金の上に重ね鍍金を施す方法。 | (田寄正浩) | 同 人 |

許許出願公告 (昭和 31—4—11)

- | | | | |
|-----------|---|-------------|----------------------|
| 昭 31—2656 | 鉄鑄物の製造方法
どの部分も一様に緊密でそれに相当した物理的性質を有している堅牢で稠密な鉄鑄物を作るべく凝固行程中に於ける緻密浸透性を支配できるような分量に鋼鉄屑、鑄鉄及鉄を熔解する方法。 | (オリバー・スモニー) | ハーバート・アンダーソン・リース (米) |
| 昭 31—2657 | 鋼の脱燐法
鋼浴に 10 分子結晶水を有する結晶炭酸ソーダを加えてこの結晶水から発生機状態の水蒸気を生ぜしめその酸化作用を利用して鋼中の燐を酸化除去する方法。 | (アーサー・シル) | 同人 (仏) |

特許出願公告 (昭和 31—4—16)

- | | | | |
|-----------|--|---------------|--------------------------------------|
| 昭 31—2804 | ペレットの焙焼装置
堅型乾燥炉の直下に設けその炉道断面積を下方に至るに従い段階的に大となして焼成帯域、均熱帯域、冷却帯域を形成し、焼成均熱帯域の境界段階部には燃焼室の熱風供給口を、又炉頂開口及び均熱冷却帯域の境界には負圧の瓦斯排気口を設けたもの。 | (原田静夫) | 川崎製鉄 K.K. |
| 昭 31—2807 | ペレットの堅型乾燥炉
堅型焙焼炉の直上に設けた乾燥炉の炉頂開口に下方に向けて加熱する加熱装置を設け、炉道中間の任意個所及び炉道下端に夫々負圧排気管を設け、該管はその管径を異にすると共に之に設けた調節バルブにより異なる比率の排気力を持たせ、該排気口を境として炉道内に数段の負圧排気度の異なる乾燥帯域を区劃形成したもの。 | (原田静夫) | 川崎製鉄 K.K. |
| 昭 31—2810 | 鉄鉄の製造法
予備還元炉と製煉炉とを併置し、予備還元炉に鉍石と炭素性物質とを装入して加熱帯域と還元帯域を通過せしめ、加熱帯域には含酸素流動体を送入し且還元帯域には製煉炉にて得られる還元性ガスを送入して装入物を熔解することなく加熱と予備還元を行い、次で予備還元炉で得られる予備還元された固形物を製煉炉に装入し還元性雰囲気中で製煉を行う方法。 | (エッチ・フィリップソン) | ソシエテ・サントラル・デシヤンジュ・テクニク・アンテルナシオノー (仏) |
| 昭 31—2816 | 熔鉄の強力脱硫脱砒法
酸化カルシウム 30~50% と無水珪酸 30~60% とアルミナ 5~20% とよりなるカルシウム系鉍滓にアルカリハロゲン化合物の 1 種乃至 1 種以上 5~20% を添加配合した熔融鉍滓を電解液とし、その中に陽極を懸吊し熔鉄を陰極としてその間に直流電圧を加えて熔融鉍滓を電解し反応生成物中の硫化カルシウム又は砒化カルシウムの一部を鉍滓中に又他の一部を陽極に析出する酸素により酸化し無水亜硫酸又は無水亜砒酸の形態で除去する方法。 | (丸山益輝外1) | 金属材料研究所長 |
| 昭 31—2951 | 押湯保温材
酸化鉄、酸化マンガンの如き金属酸化物にカルシウムシリサイド、アルミニウム・マグネシウム等の還元剤を配合した保温材に必須要素として塩素酸カリ或は過マンガン酸カリ又は之等の混合物を添加配合したもの。 | (山下喜弘) | 山陽製鋼 K.K. |
| 昭 31—2951 | 含銅磁硫鉄鉍の磁力選鉍法
原鉍をボールミルにより 200 メッシュ以下 60% 以上に微粉碎した 後浮遊選鉍により 銅精鉍を分離する工程とその尾鉍を磁化機により磁化する工程と之を磁力選鉍し硫化鉍精鉍を分離する工程と硫化鉍の磁選尾鉍を浮遊選鉍を行い磁性の強いものと弱いものとに分離し硫化精鉍を得る工程との結合からなる方法。 | (久保秀正) | 日本鉍業 K.K. |